

令和4年度（2022年度）第3回すいたの年輪ネット議事録

1 開催日時

令和4年1月31日（火）午後2時から午後3時58分まで

2 参集場所

吹田市立千里山コミュニティセンター 多目的ホール

3 出席委員

委員長 新崎 国広 委員（大阪教育大学教育学部教育協働学科 特任教授）
泉 由紀子 委員（株式会社ダスキン ダスキンライフケア吹田ステーション 店長）
清水 泰年 委員（公益社団法人 吹田市シルバー人材センター）
矢上 敬子 委員（吹田市ボランティア連絡会 副会長）
内山 博 委員
（特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク吹田(友遊悠)代表）
半崎 智恵美 委員（NPO 法人 市民ネットすいた 理事）
岸下 富盛 委員（一般社団法人吹田市高齢クラブ連合会 理事長）
氏平 友子 委員（吹田市民生・児童委員協議会 会計監査）
山下 節代 委員（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 副会長）
星 久美子 委員（吹田市介護保険事業者連絡会 訪問介護部会 副部会長）
委員長職務代理者 新宅 太郎 委員
（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 地域福祉課主幹・広域型生活支援コーディネーター）
厨子 麻子 委員（市民委員）
佐本 一真 委員
（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 地域福祉課地域福祉第2係長 コミュニティソーシャル
ワーカー統括者）
川口 紀子 委員（吹田市桃山台・竹見台地域包括支援センター センター長）
安宅 千枝 委員（吹田市福祉部高齢福祉室長）

4 欠席委員

藤原 俊介 委員（吹田市人権啓発推進協議会 会長）
牧野 政江 委員（吹田市介護保険事業者連絡会 居宅介護支援部会 会員）
玉村 信行 委員（市民委員）

5 会議案件

- (1) 広域型生活支援コーディネーター活動報告について
- (2) 令和4年度の取組について
 - ・すいたの年輪ネット専門職向け研修会
- (3) すいたの年輪ネットで取組むテーマについて
- (4) 具体的な検討
 - ・助け愛隊活動の充実
 - ・団塊世代の社会参加促進
 - ・マンション住民の高齢化
- (5) その他

事務局：

傍聴者は1名です。5名以内ですので、入室していただきます。

【資料の確認】

【委員の新任委員の紹介】

吹田市民生・児童委員協議会の加賀城氏の後任に、会計監査の氏原友子委員が就任。

事務局：

見学の地域包括支援センターは、岸部地域包括支援センター、片山地域包括支援センター、豊津・江坂地域包括支援センター、千里丘地域包括支援センター、津雲台・藤白台地域包括支援センター、古江台・青山台地域包括支援センターの6センターです。

【開会】

【委員長の挨拶】

委員長職務代理者：

(案件 1 広域型生活支援コーディネーター活動報告について、説明。資料 1 参照)

委員長：

コロナ禍の中で、活動がかなり制限され、それぞれ地域の方々や委員の方々からの意見を取り入れながら、工夫しているところを報告していただきました。いかがでしょうか。何か今の説明に対して質問や意見はありませんか。

委員：

地域の高齢者生活支援として、コミュニティソーシャルワーカーと広域型生活支援コーディネーターと一緒にICT活用サポート講座（スマホ講座等）を実施しているところです。令和4年度は、15回ほど実施しています。地区福祉委員会だけでなく、中には大学生にも協力してもらい実施しています。高齢者にとって、スマホ等ができるようになり、若い方と交流もできたことを喜んでいて聞いています。大学生、高齢者にとって、多世代交流ができるいい機会となっているので、今後もこのような場をコーディネートできればと思います。

委員長：

高齢者生活支援体制整備協事業は、大学生のような若者と高齢者の方々の交流ということで、高齢者の方にとっては、孤立防止になることとICT活用が進み生活の拡大ができるというメリットがあります。地域のことに對してあまり関心がない若者にとっても地域のことに關心を持つ機会になる取組だと思ひます。これからもよろしくお願ひいたします。

何か報告や意見がないようでしたら、次の案件に入ります。

委員長職務代理者：

（案件2 令和4年度の取組みについて説明。資料2参照）。

委員長職務代理者：

すいたの年輪ネット専門職向け研修会の当日の司会をされた委員、何か感想などありませんか。

委員：

最初に生活支援体制整備事業について講師より基本的な話があり、市民の皆様が聞いてもわかりやすい内容でした。私も含め専門職の方が一番響いたのは、地域の住民を中心として実践することが重要であるということでした。また、講義の後に千里山西地域包括支援センターの活動報告があり、地域包括支援センターが主導で始めて、途中活動が継続できなかったことへの振り返りでは、やはり住民主体で、住民との合意形成が大事であるという視点が分かり、大変良い勉強になりました。

委員長職務代理者：

研修会場に参集されたのは、介護保険事業者の皆さんがほとんどで、今後、地域の検討会で介護保険の事業者の人たちと一緒に地域づくりに取り組んでいけたらと考えています。

委員長：

専門職の連携というのはとても大切ですが、ついその専門職同士のネットワークで終わってしまい、地域の方々との協働が弱くなりがちです。専門職向けに、地域との繋がり大切さを知るための研修をしていただくことが大切なことだと思います。

ほかに意見や質問がないようでしたら、次の案件を進めていきます。

委員長職務代理者：

(案件3 すいたの年輪ネットに取り組むテーマについて説明。資料3参照)

委員長：

この資料3は、大変良く、今後もブラッシュアップが必要になります。6年前にすいたの年輪ネットができたときから時系列でどのような課題があったかが一覧で見ることができます。今議論していることやその理由や原因などの見える化ができています。

この報告について何か、意見や質問がないようでしたら、案件4の具体的な検討をしていきます。

委員長職務代理者：

(案件4 具体的な検討、説明。)

グループ協議の1番目のテーマ「助け愛隊の充実」についての議論に入る前に、助け愛隊についての説明をします。すいたの年輪ネットで議論する中で、高齢者の居場所、社会参加が大事なことと話し合わせ、高齢者の生活支援、ちょっと困っている時に支援を受ける側と支援する側のマッチングということで、ボランティア活動で取り組む「助け愛隊」というのがスタートしたという経緯になります。

生活支援を求める高齢者をどう支えて、助けるかという視点だけではなく、高齢者が社会参加して、ちょっとしたボランティア活動を行う事が大事だという意見を受けての取組となっています。

対象となる高齢者は75歳以上の一人暮らしの方になります。対象が何故75歳以上で一人暮らしなのかということに対して、意見もでました。民生・児童委員の方が把握している地域の高齢者の台帳が75歳以上の一人暮らしの方ということもあり、台帳との連携、民生・児童委員活動との連携等を考えて、このすいたの年輪ネットの中で話し合い決めてきました。活動については大型ゴミの搬出、電球交換、季節家電の入れ替え、草抜きなどの簡易な庭掃除のこの四つの項目で、いずれも年に1、2回程度の単発で30分以内の活動です。

吹田市で平成28年度に実施された高齢者生活支援に関する調査の中で、単発的な活動で比較的多いものを四つの項目として選びました。活動するにあたっては、必ず2人

体制としています。依頼内容の中には「助け愛隊」で活動できない場合もあります。その場合は、民間業者を紹介したり、地域包括支援センター、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーが連携して支援を行います。これまでの活動の様子を別紙1よりグラフデータ化して分析しております。令和元年度からスタートしていますが、コロナにより活動中止となってから件数の伸びはありません。助け愛隊のニーズが少ないという捉え方もできますが、助け愛隊活動で実際に御相談いただいた件数が、この3年間で253件です。そのうち4割が助け愛隊のボランティアさんで活動しました。残りの6割の方は助け愛隊の活動には至っておりません。これは本人が自分でできたとか、調整を待っている間に、御近所の方や子どもに相談して手伝ってもらったとかで、「助け愛隊」に依頼せずに終わったというケースもこの6割の中には入っています。

また、民間業者を紹介したものも含まれています。4項目以外のその他とは、これは助け愛隊活動の四つの項目以外で、専門的な知識が必要なものは専門の業者の方を紹介します。

今後どうすればこの「助け愛隊」の活動がより充実するのか、また工夫したらいい点など皆さんからの意見をいただけたらと思います。実際にどう実行していくかは、また今度皆さんと検討していくことになるかと思っています。

また、グループ協議の2番目のテーマ「団塊世代の社会参加促進」とグループ協議の3番目のテーマ「マンション住民の高齢化」については、皆さんで意見や課題などを議論していただければと思います。

(3グループに分かれて各議題について検討する)

委員長：

助け愛隊活動の充実についての発表をお願いします。

委員長職務代理者（1グループ）：

身近なところでこの助け愛隊の活動が広がるといいという話でした。今はオール吹田で定期的に活動するという事は難しいですが、身近な地域単位で助け愛隊というのができたらいいという意見がありました。より細かいローカルルール、例えば町会の中で、瓶とか缶とかを処分するコンテナをたたみに行くとかという内容など地域単位で出てくると思います。それらのお手伝いができるというローカルルールが必要なのではないかと。顔なじみの人が、ちょっと聞かれたときに助け合うという、そういったところに繋がるといいという意見でした。そもそも高齢者のニーズとは何かという話にもなりました。地域でできたらいいというのはありますが、実際、地域で高齢者が何を望んでいるのかという話になり、どこかで高齢者のニーズ確認が必要と思いました。あとは助け愛隊の人数が増えたらもう少しいろんなこともできるかもしれないという意見です。今44人の登録ボランティアですが、それが多いか少ないのかは分かりません。

委員（2グループ）：

さらなる助け愛隊の認知度をアップしていきたい。それが必要な理由としては、知らない利用者や、助け愛隊の活動をしたいという方々に、こういう活動があるということを知ってもらうためには周知が必要という意見です。また活動内容の充実に関しては、1グループでの意見と同様、困りごとの調査をするべきという意見がありました。その中でも、高齢者の一人暮らしの方にやはり話し相手が大変少なく、昨年10月からサロンを開始したという福祉委員の方の話によると、サロンに出てくる方のお話で困りごとを聞けるのではないかという意見です。現在の助け愛隊活動は単発的な活動ですが、こういう話になってくると継続的な活動というのも、必要にはなってくるが、これは継続でも単発でも、必要性に応じて対応していく必要があるのではないかという意見が出ました。

委員（3グループ）：

助け愛隊活動の充実について

まず、この助け合いをコーディネートするコーディネーターが、社会福祉協議会だけでなく、もう少しより地域に身近な福祉の専門職が関わることで、より丁寧によりの確なニーズを拾うことができるのではないかという話もでました。現在は、費用は無償で活動時間30分と制約がありますが、有償での活動というのも必要ではないのかと思います。実際求められている活動については再度調査ないし検討する必要があるのではないかと意見がありました。その中で、スマートフォンの操作など苦慮されているとか、生活する上で操作できないと困る事など、そういうことも救えるような仕組みがいます。このような内容も含め、もう一度困りごとの確認をした方がいいのかという意見がありました。

委員長：

団塊世代の社会参加促進について発表をお願いします。

委員（2グループ）：

今回、団塊世代の社会参加促進という、男性の方に社会参加していただくための手法などを皆さんで話し合いました。その中で定年後、元の職業を生かしてボランティア的な活動に参画したら活躍しやすいのではないかと話しました。例えば調理師であれば食事づくりの料理教室とか、あと学校の先生であったら、寺子屋的な場所で世代間交流を兼ねながら、子どもたちの学びの場で活躍するというようなこともできるのではないかと、あと会計の仕事をされていた方は、自治会とかでも活躍できるのではないかと話をしていました。

ボランティア意識を高めたり、アクティブシニアの養成というところに関しては、委

員長の方からも、なかなか参加者が少ないということをお伺いしましたので、これをどのように取り組んでいくのが大事なのかと思います。例えば一人暮らしの方で、社会参加促進にうまく成功された方からの話を聞くというような、取組も必要ではないのかなと思います。子どもと関わる場で活動することで子どもからのエネルギーをもらうというのもいいと思います。

委員（3グループ）：

まずアクティブシニアの思いをどう結びつけていくのかというところで、メインはボランティア活動を中心に話をしてもらいました。より多くの方にアクティブに地域で活躍してもらうためには、ボランティア活動だけに限定するというのは、難しいのではないかという意見がありました。男性で会社を辞められた後にシルバー人材センターに流れる人が多くいます。その中で無償よりも有償を選ばれる方もいます。お金という対価のためと言いながらも、新しい仲間ができることを楽しみにされて参加しているという話もありました。その中で有償か無償かとなると、私達は特に無償の魅力という部分をもう少しどうにかして伝えたいという話もありました。

委員長職務代理者（1グループ）：

意見はだいたい同じだと思って聞いていたのですが、まず退職後、皆さん何をしているのかというのと、同時に何がしたいというのがあって、セカンドライフに関する講習会について、グループの中に企業、事業所の方もいらしたので聞いてみました。50代後半の方を対象としたセミナーがあり、企業等と一緒にセカンドライフを考えるという取組です。単発的に企業の企画も大事ですが、行政の中でも、企業と連携している部署があると思いますので、そこでのオール吹田での連携というのができればと考えています。ひとつずつ企業を探しあてて声掛けしなくても、高齢福祉室の中で、高齢者見守り事業に協力して取り組んでいる企業もあります。企業の活動についても、もっと勉強しないといけないと感じました。特に女性はよく話すから社会参加ができている、男性は、会話が苦手という意見も女性の皆さんからありました。男性の皆さん全員がそうではないですが、そのようなところでどのようにピアールしていくかというのも、今後、必要かという意見もありました。

委員長：

様々な意見が出てきています。やはり地域の団体の方々の中での最初のスタートというのはかなり難しいとは思いますが、現在、地区福祉委員の方や、民生・児童委員の方でも男性の方がリーダーになっている方が多いので、その辺のプライドをどうくすぐるかというところが、一つのポイントかと思いました。

委員長：

マンション住民の高齢化について、発表をお願いします。

委員（3グループ）：

このテーマは非常に難しく、高齢者自身ではなくマンション住民の若い方に頑張って欲しいという言葉いただきました。

その中でも自治会の組織のような役割をするという負担感を感じる方もいらして、もう少しその辺が緩やかになれば、入りやすいという話がありました。逆に日常的なことができないのではないかという意見もあり、例えば日常の生活ごみですが、助け愛隊のような仕組が、各マンションの自治会にあれば、もう少し潤滑になるのではないかという話もありました。

また、今、高齢者だけではなくて、若い世代、子供や乳幼児を持つ親御さんも増えている中で、また例えば廃止となった子供会の対象年齢を乳幼児まで拡大し、より多くの若い方が地域、自治会マンション等と繋がれるきっかけを作っていくことも大切にはなってくるのではないかという意見がありました。

委員（2グループ）：

このテーマについては苦戦しました。まず自治会との連携については、自治会自体が今それぞれの自治会で実情も変わってしまい、しんどくなっている状況にもなっている中で、どう連携を取るのか、難しい課題ということで、自治会を超えた少単位でのグループを、ターゲットとして、主として動いてくださる方を誰か定めながら、その方にアプローチをしながら、お茶会の企画などそういう集まりの場を企画していく、それだけでもまだ環境面でもやはり集会場があるところとないところがあるので、やはりその辺の環境の条件も合わせて考えていかないといけないので、なかなかマンション住民の高齢化に対応していくっていうあたりの自治会の活用が難しいというのが、結局答えが出ないまま終わってしまいました。

委員長職務代理者（1グループ）：

市内にたくさんマンションがある中でも、分譲マンションと賃貸マンション賃貸アパート、UR都市再生機構もあります。吹田市に多く、URという単位で一つ考えるというのもいいのではないかと思います。いろんなテーマが出ていますが、マンションの強みとマンションの弱みというの、わかるようでわかりにくいということです。強みというとその集会所があると、周知もしやすくすぐにできるということ。弱みという、個々の生活の様子がわかりにくいということ。最近はおトロックのマンションだと、理解できない高齢者は、一旦外に出たら帰るのがまだ難しいということで外に出るのを躊躇します。それがゆえにフレイルになりがちという意見もありま

した。また強み弱みもありますが、それぞれのマンションで、一回集まってみて、交流会があると課題がまた把握できるのではという意見もありました。あと管理人室との連携ということ考えたのですが、管理人の方と上手くつき合いができれば、高齢者の生活情報などを聞くこともでき、一緒になって考えるということができるのではないかと思います。

委員長

身近なところでの活性化、またとてもいいのは、高齢者の方々にどのようなことに興味があるかを聞くプロセスが、結果として孤立防止に繋がるということです。

先ほど、活動内容の検討に、三つのグループがそれぞれ話されていましたが、助け愛隊の内容が本当に今までの四つの項目でいいのかどうかです。

一つは助け愛隊の目的は孤立防止とか、生きがいつくりにつながります。4年経過し、四つの項目を見直してみる、それを検討するプロセスの中で、高齢者の方々とか、地域団体の方々等から話を聞く中で、もう少し繋がりを考えていってもいいと思います。

また、2グループの方、専門職が参加して何かイメージありますか。本日、傍聴で来られている金融機関の方等、地域と繋がることで社会貢献する中でお互いがメリットになってくるのも一つポイントです。助け愛隊の活動のニーズを調べる、継続性をもたらされるために話を聞くことで、もう少しプログラムを検討していくのはいいと思います。

また、団塊世代の男性の方の社会参加については、いろんな課題があると思います。一つはキャリアを活かすという事ができればと思います。今、学習支援で退職教員の方で熱心に取り組んでいる先生方もいます。そういう先生方に子供たちへの学習支援とかに関わっていただけませんか、男性の料理教室を元調理師さんをお願いするというのもいいと思います。

高槻市での会議の中で、実践報告された方は、もともと企業の人事課で活躍されていた方で、一級建築士の方が、コミュニティデザインに、60歳から80歳までの地域づくりに自分が設計技師としてデザイン作りをし、地域というところに視点をあて5年後10年後のコミュニティを考えていると報告していました。そのときのポイントはやはり、トップの方が若い人材の方に聞いていくこと、助けられ上手というのはすごく重要です。共通するのは有償化ということですが、これは私の個人的な思いですが、今、豊中市には高齢者ボランティアポイント制度が導入され、今、国が推進しているのは、高齢者施設の中で、65歳以上の高齢者の人が活動したら、1年間で5000ポイントを出すというのが国基準です。

しかし、今は、ほとんどの市町村で活動が中止となっています。つまり高齢者施設はリスクが高いから、豊中市は最初の設計の時に、地域福祉活動、地域福祉委員の方の活動とか民生・児童委員の方の活動の中でも、65歳以上の方が望んだらポイントつけることとなっています。豊中市は1年ぐらいかけて、制度設計について何回も検討した結

果、今、年間 1000 人ぐらい活動されています。吹田市でも、もう少し、助け愛隊の仕組みを変えたら、ポイント制度というのもあり、その制度を導入すると多分お金も溜まると思います。ニーズとしたら趣味を活かす、キャリアを活かす仲間づくりというキーワード、企業との連携ということでは、例えば吹田市には大企業があるので、そこでこういう助け合いとか、地域の団塊世代の社会参加という取組を一緒に考えませんかと提案し、企業のところで実践してもらおうのもありかと思います。

また、マンション住民の高齢化については、本当に難しい問題で、URや分譲や賃貸とか、やはりマンションにもいろいろあります。先ほど言ったオートロック最先端のところについて、吹田市社会福祉協議会の局長からは、なかなかアプローチが難しいと聞きました。アプローチした場合は、例えば子育てとかその方々がニーズとしてあがってくる部分にもこちらから少し寄り添い、子供と関わる交流を考えていくといいと思います。また古いマンションであれば、集会所を活用し、専門職との連携を考えると、認知症の予防的な支援としてオレンジカフェを集会所で、専門職も入り、地域の方々に関わっていただくといいかと思います。

今後、委員長職務代理者を中心に、生活支援コーディネーターの方が、一緒にこのような提案をもとに、令和5年度の仕組みづくりを考えてもらえたらと思います。

特に助け愛隊については、1度内容をブラッシュアップするのは有効かと思いました。今日ですべてのことが解決するのではなく、吹田市のすいたの年輪ネットの素晴らしいところは、皆さんのような委員の方々の意見や、そして地域の方々への調査をもとに、専門職、行政が協力して取り組んでいくところがすごく大きな特徴だと思います。これは令和5年度も継続して検討するのがいいと思っています。皆さん貴重な時間、本当にありがとうございます。

何か意見とか質問とか、よろしいでしょうか。これで、今回のグループワークは終了したいと思います。それでは、最後に事務局よりお願いいたします。

事務局

事務局からのお知らせです。市民委員の方につきましては、本日1名御欠席ではありますが、退任届をいただいています。あと残期間1年間、令和5年度があり、令和5年度につきましては、3月の市報で市民委員の公募をする予定です。皆さんの中で、お知り合いの方などで、いいと思われる方がいらっしゃったら、申し込んでいただければと思います。次回の日程については、令和5年度は6月頃の予定です。また5月頃御案内をいたします。次年度も年3回、概ね6月と11月と1月の開催予定としています。

委員長

本日は、寒い中、お集まりいただき、また熱心に議論をいただきまして、ありがとうございました。それでは、今回のすいた年輪ネットはこれで終わります。